

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05287	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	人工神経接続による運動機能再建と機能回復機序の解明～神経適応から可塑性へ～	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	西村 幸男 (公益財団法人東京都医学総合研究所・認知症・高次脳機能研究分野・プロジェクトリーダー)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、1) 大脳皮質の神経細胞は運動に対する役割を変えられるか、2) 脊髄損傷患者の機能回復は脳・脊髄の機能的地図の変化によるものか、の2つの疑問を明らかにすることを目的としている。</p> <p>第一の疑問については、脳梗塞サルの機能残存大脳皮質と手の麻痺筋を人工神経接続でつなぐ実験により解答が得られるなど、優れた研究成果が上がっており進捗は順調である。また、第二の疑問についても、脊髄及び大脳皮質のマッピングのためのMRI撮像プロトコルを確立しており、計画は着実に進展している。</p>		